

秋吉台

春の訪れを告げる「秋吉台山焼き」

秋吉台で18日、早春の風物詩である「秋吉台山焼き」が実施されました。午前9時半、晴れた青空に狼煙が上がると一斉に火が付けられ、ススキなどの枯れ草がパチパチと音を立てて勢いよく燃え広がりました。オレンジ色の炎が風に舞うように枯れた草原を走ります。その後は黒色の台地となり、枯れ草で見えなくなっていた白い石灰岩が姿を現しました。この山焼きが終わると、いよいよ秋吉台の一年が始まります。



花も実もある秋吉台

ウメ バラ科の落葉樹。観賞用として庭に植えられたり、畑で栽培され、また人里離れたところでは野生化しているのを見かけます。古い時代に薬用として中国から入ってきました。早春、最も早く咲く花です。数多くの園芸品種があり、紅色や八重咲、咲き分けと多様です。

ヤブツバキ ツバキ科の常緑高木。初冬の頃から咲き始めます。寒さが厳しい時期は紅い花卉の縁が茶色く変色しています。寒いのは苦手なのでしょうか。やはり椿は、あたたかい春が一番の見頃です。

アセビ ツツジ科の常緑低木。山野に自生、また庭などで植栽されています。漢字では「馬酔木」と書きます。これを食べると馬でも足がしびれて酔ったようになるというのが由来です。事実、有毒で茎葉を使って殺虫剤として利用されたそうです。



観察会「カエルと卵の観察」（2月10日）

観察会「カエルと卵の観察」を行いました。ゲゲゲのエコ池、冠山の湧水、秋吉台家族旅行村のジャブジャブ池へと移動しながらヤマアカガエル、ニホンヒキガエルの卵を観察しました。池の近くでコロコロとカエルが鳴いていたので、そのまわりを探しましたが見つかりませんでした。気候や生息地の環境が変化してきているのでしょうか、例年と同じ時期にはカエルや卵が少ないようです。



オニグルミ（鬼胡桃）

クルミ科、雌雄同株の落葉高木です。花は初夏に咲きます。秋に熟れた果実を採って、果肉を取り除いたものがクルミです。茶褐色の硬い殻を割ると、中に白っぽいものが入っています。脂肪分が多く、栄養価も高いので食用にされます。たまに、樹木の空洞などにたくさんのクルミが入っていることがあります。野生動物が備蓄したものでしょうか。



4月の行事

4月 7日(日) 「化石採集体験」(大正洞桜まつり同時開催)

石灰岩に含まれるフズリナなどの化石採集体験を行います。